

平成18年度実績評価事務事業進行管理表

事務事業名	天龍峡花の里事業				財務会計上の位置付け	会計	款	項	目	細目	細々目	19予算額(千円)
部等名	産業経済部	課等名	観光課		包含する細々目	1	7	1	4	14	3	1,500
政策	1 多様な産業が発展できる経済力の強いまちづくり											
施策	11 事業者自らが実施するパワーアップ活動											
実施区分	継続	会計	一般会計	環境調整会議	済み	地域経済活性化プログラム						
		事業期間	17年度～	26年度		関連計画条例等						

【Do】(1)この事務事業は次の目的を達成することを目指します。

目的の記述	対象(人や物、自然資源など)	対象の大きさを表す対象指標名と単位	対象指標の数値			
	天龍峡	観光客数(人/天龍峡)	現状又は19年度見込	23年度又は終了年度		23年度以前に終了は終了年度とする
			320000	450000		
	意図(成果は何か、対象をどうかえるか)	成果達成度を表す成果指標名と算定式・単位	成果指標の数値(実績・目標)			
	天竜峡IC周辺用地の有効利活用	そばの栽培面積(ha)	18目標	3	最終目標	
			18実績	3	19目標	3
	観光客数(人/花の里)	23目標	2	23実績		最終目標達成年度
		18目標	3000	最終目標		
		18実績	2000	19目標	2000	↑
		23目標	8000	23実績		最終目標達成年度

(2)意図を達成するために以下のことを取り組みます。

手段の記述	事業の全体概要(補足説明)	具体的活動内容(やり方、手順、詳細)	活動量を表す名称・単位	活動量の値
	三遠南信自動車道天龍峡インター(仮称)周辺用地の効果的且つ有効な利活用を図るため花畑を設置し、花を活用した交流空間を創り出す。信州大そばを中心に計画的に花を栽培し、花の里への誘客を図るとともに市民の憩いの場とする。また、花の里で収穫された長野県の奨励品種である「信州大そば」を活用し天龍峡への誘客を図る。	18年度の実績 4月下旬から5月上旬にかけて菜の花(17年度秋に播種)が見頃。 18年度初めて夏そばを栽培、天候不順により播種が遅れたが7月中旬頃に花の見頃を迎えた。 秋そばは9月中旬から下旬にかけて花の見頃を迎え、県内外から多くの観光客が訪れた。来訪者への湯茶接待が好評を得た。 17年度収穫した信州大そばは、体験教育旅行のそば打ち体験プログラム等において活用。18年度は約2,000kgを収穫。 第2回日本そば大学が天龍峡を主に開催、全国から150人受講。 花の里の地元(川路八区)では千登勢そば打ち同好会が発足。	新たな仕掛けにより増加した観光客(数)	2,000人
	19年度計画 信州大そば開花期(夏・秋)に大そば祭りを開催し花の里への誘客を図る。 天龍峡で信州大そばが食べられる仕組みづくりを行なうなど、花の里事業を活用して天龍峡への誘客を図る。 信州大そばの普及活動及びブランド化の推進。	新たな仕掛けにより増加した観光客(数)		

<金額の単位:千円>		18決算額(見込)	19予算額(当初)
事業費	特定財源		
	国庫支出金		
	県支出金		
	起債		
	その他		
	一般財源	1,450	1,500
	事業費計(A)	1,450	1,500
人件費	正規職員所要時間	18年度 240	19年度 400
	臨時職員等所要時間		
	人件費計(B)	858	1,430
	トータルコストA+B	2,308	2,930

特定財源内訳や補足事項	
-------------	--

(3)この事業目的の達成は、次の上位(施策や主体の役割)目的の達成に結びつきます。

目的の記述	結果 この事務事業の施策(基本事業)の目的	上位成果指標(施策又はムトス指標)と単位	上位成果指標の数値			
	天龍峡における観光客の増加	観光消費額(円)	現状値	14500000	19実績	15000000
			20実績		21実績	
			22実績		23目標	
		経済自立度(%)	現状値		19実績	
			20実績		21実績	
		22実績		23目標		

この事業を開始したきっかけ 天龍峡インター周辺用地の有効活用による、天龍峡への観光誘客並びに地域の活性化を図る。	事業を取り巻く状況の変化 平成20年春に天龍峡インターの供用開始が予定されており、同時に周辺道路環境も整備される。インフラ整備にあわせて天龍峡の再生・活性化策の確立は不可欠。	事業に対する市民や議会の意見 天龍峡インター周辺用地の有効活用により地域の活性化と天龍峡の再生・活性化を図る。天龍峡インター周辺用地の恒久的な利活用計画により地域の活性化を図る。
---	--	--

【See】18年度の振り返り

目的 妥当性 評価	この事業の意図の達成が、結果(上位目的)に結びついていますか？ (評価) 結びつく (その理由) 花の里の見学に県内外の観光客が多数訪れている。また、地域の方々が全面協力して積極的に取り組んでいる。	有効性 評価	成果をさらに向上させる余地はありますか？ (評価) 余地がある (その理由) 信州大そばの栽培方法と開花期が2年間の実績により確立した。開花期にあわせた受入体制の整備と誘客戦略により更なる誘客が可能。
	対象の見直し、拡大、縮小の必要性はありますか？ (評価) 必要性がない (その理由)		廃止・休止した場合の影響はありますか？ (評価) 影響あり (その理由) 天龍峡インター周辺用地の有効活用による地域の活性化への期待は大きい。また、インター供用開始に向けた取り組みであるとともに、供用開始後においては文字通り地域振興インターとしての役割と機能が必要である。
	意図の見直しの必要性はありますか？ (評価) 必要性がない (その理由)		他に類似事業はありますか。また統合の可能性はありますか(市以外の取組も含む) (評価) 統合不可能 (類似事業名、理由)
	市が関与する必要性はありますか？(市が税金を投入すべき事業ですか) (評価) 必要ある (その理由) 地元をはじめ観光事業者等と一体となって事業の方向性を定め、結果として天龍峡一帯の発展に結び付けていく必要があるため、市の関与は不可欠。		効率性 評価
		公平性 評価	受益者は誰ですか？また、負担の是非、程度は妥当ですか？ (評価) 妥当である (受益者とその理由) 天龍峡の地域住民及び観光事業者。

【Plan】改革改善

今後の事業の方向性 <input type="checkbox"/> 終了 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的見直し <input type="checkbox"/> 別事業に統合 <input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善 <input type="checkbox"/> 現状維持	実施年度 平成20年3月までに、花の里事業を活かした地域の活性化と天龍峡への観光客の誘導ができる仕組みを整備する。
上記の改革改善案を実施する際、想定される課題とその克服方法	19年度は、地域再生マネージャー事業の中で天龍峡活性化プログラムを具体化し、官民一体となった取り組みを実施する。

【補足事項環境側面】

(1) 環境影響評価の必要性判断	必要性がない	(2) 必要性な場合の実施事由
(3) どのような点に配慮し事業に取り組みましたか？	南信州の玄関口となる天龍峡インター周辺地の景観形成に配慮。	

【指摘事項】

施策マネジメント会議	
施策評価会議	
第5次基本構想基本計画推進委員会	